

# おとべけ 松江藩家老・乙部家の所蔵品

2026年2月3日(火)～3月29日(日)

江戸時代、現在の松江歴史館の場所には松江藩代々家老六家のひとつである乙部九郎兵衛家の上屋敷がありました。乙部家に伝わった古文書類は、「乙部家文書」として2005年に当館に寄託されています。

乙部家の所蔵品、特に絵画コレクションは、かつて雲州松平家七代藩主・松平治郷（不味）の「雲州蔵帳」と並び称されるほど著名でした。収集の中心人物は同家十代の可時です。可時時代の「御道具帳」には、現在国宝や重要文化財に指定される驚くような名品を数多く見出すことができます。これらが収集されたのは1840年代末～70年代初頭、200年以上続いた幕藩体制が崩壊に向かい明治新政府が樹立される、まさに激動の時代でした。可時がなぜ一代でこれほどの名品を収集できたのか、今も多くが謎に包まれています。

今回は、乙部家旧蔵の伝雪舟筆「真山水図」が当館に寄託されたことを記念し、地元松江で初めてご紹介するものです。乙部家が所蔵品保管に用いた特別な外装「乙部仕立」もあわせてご覧下さい。



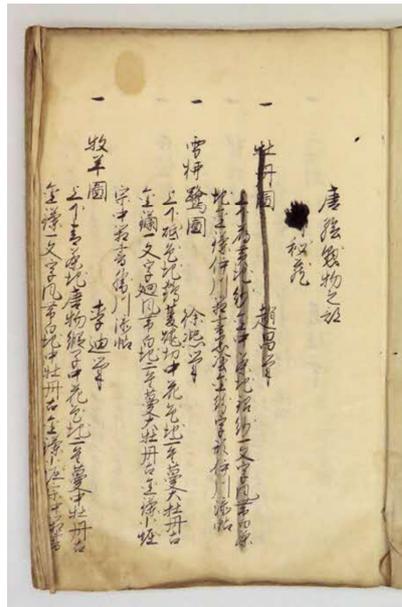
## 乙部 九郎兵衛 可時（おとべ くらべえ よしとき）

- ・生没年：文政7年～明治20年／1824～87
- ・家老出仕：弘化元年～明治2年／1844～69

九代藩主松平齊貴、十代藩主松平定安に仕え、弘化4年（1847）の孝明天皇即位礼に齊貴が將軍名代として上洛した際には行列の殿（しんがり）をつとめた。

陶山雅純（勝寂）筆「松平齊貴上京行列図」より 殿の乙部九郎兵衛可時、江戸時代後期（19世紀）、東京国立博物館蔵

出典: ColBase(<https://colbase.nich.go.jp/>)



1 御道具帳 (乙部家文書 11-7)

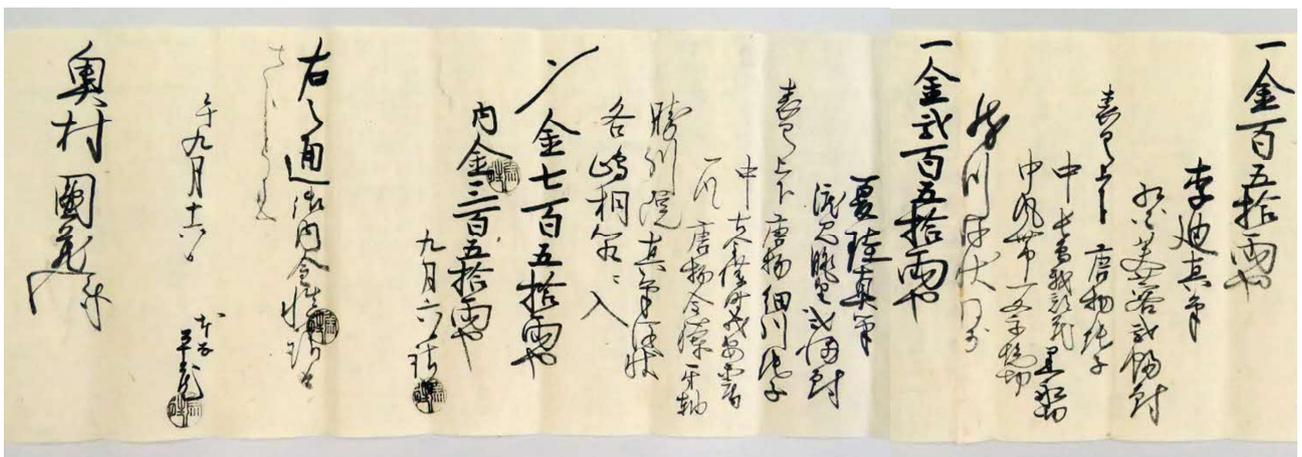
明治4年(1871)以降成立、個人蔵、松江歴史館寄託、縦 26.5×横 18.5cm

可時時代の乙部家所蔵品目録。冒頭の「唐絵懸物之部」に中国絵画 165 件、続く「和画懸物之部」に日本絵画 29 件が記され、現在、国宝・重要文化財に指定される李迪筆「紅白芙蓉図」、伝馬遠筆「洞山渡水図」(ともに東京国立博物館蔵)等の所蔵が確認できる。

【伝雪舟筆「真山水図」の記載】

一 真山水図 雪舟筆

上下白茶地唐物緞子 中焦茶地紗金 一文字風帯御納戸地紹金 伊川添帖



2 本屋平蔵「覚」(乙部家文書 8-1-2)

明治3年(1870)9月、個人蔵、松江歴史館寄託、縦 16.0×横 135.0cm(うち中央部分を展示)

江戸の道具商「本屋惣吉」の三代目平蔵が乙部家に売り込んだ中国絵画5件の覚書。金額・画家名・画題・員数・表具裂・附属品を列挙し、末尾に入手経緯が記される。ここから4件が購入された。「一昨年瓦解之節」とあり、明治維新の翌々年、明治3年に書かれたものと分かる(翻刻全文は最終頁)。

### 3 伝雪舟筆「真山水図」

絹本墨画淡彩、「等楊」白文方印  
江戸時代前期(17世紀)  
個人蔵、松江歴史館寄託  
縦116.5×横50.0cm



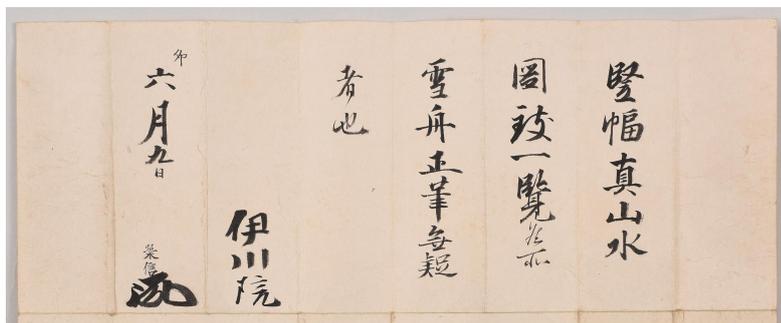
本作は「御道具帳」の「和画懸物之部」筆頭に記載されており、表具裂や添状（鑑定書）等の情報が一致する。明治期に乙部家から放出された後、昭和初期に鳥取県の旧家に伝わった。

狩野伊川院栄信(1775-1828)と今泉雄作(号也軒、1850-1931)の鑑定書が附属しており、近世から近代を通じて「雪舟正筆」と評価されてきたことが分かる。現在は雪舟の真筆とは見なされないが、絹の状態や表現等から、雪舟のオリジナル作品を元に17世紀以前に制作されたと考えられる。



「乙部仕立」と称される外装

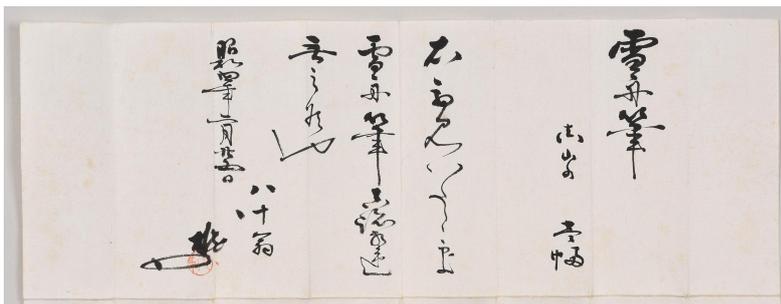
左から：内箱、底に極箱を仕込んだ外箱、外箱蓋、更紗製の外覆（本来はさらに帙が附属。右端の黒い箱は後補）



狩野伊川院栄信 添状(鑑定書)

文政2年(1819)6月9日付

(※写真は折紙のうち上部記載面)



今泉雄作(号・也軒) 鑑定書

昭和4年(1929)2月25日付

(※同前)

## 2 本屋平蔵「覚」(乙部家文書 8-1-2) 翻刻全文

覚

一金百両也

月山真筆 夏景  
人物 式幅対

表具上下唐物純子 牙軸

中 安楽庵時代焼切

中風帯一文字毛織金入

勝川院真筆添状

一金百五十拾両也

毛益真筆  
霊猫狗子 式幅対

表具上下唐物緞純子

中 長曾我部蔵黒船切

一風毛織金襴 牙軸

勝川添状同前

一金百両也

趙大年真筆  
夏季勝景 式幅対

表具上下遠州紋海気唐物

中 唐物緞金襴

一風黄純大月桐唐物

勝川添状同前

一金百五十拾両也

李迪真筆  
紅白芙蓉 式幅対

表具上下唐物純子

中 長曾我部蔵黒船切

中風帯一文字焼切

勝川添状同前

一金式百五十拾両也

夏珪真筆  
瀧見眺望 式幅対

表具上下唐物細川純子

中 古金襴時代安楽庵

一風唐物金襴 牙軸

勝川院真筆添状

各嶋桐箱二入

金七百五十拾両也

内金㊦三百五十拾両也

九月六日請取㊦

右之通御内金慎㊦請取

被下候事 以上

午九月十六日 本屋平蔵㊦

奥村団蔵様

右往来狩野養朴の世話ニ  
取集シテ手鑑ニ致たし候所、  
一昨年瓦解之節、其諸  
侯より払ニ出分ヲ好キ者  
四五人打寄諸々分ケ取ニ  
致、此節不残表具出来中  
強而懇望致讓受申候、  
尤六通之内夏明遠壺通ハ  
讓不申、諸五通より金千両ニ而  
讓可申之処、種々劃合申而  
不殘金七百五十拾両差引請させ  
申候、只今御内金御渡被下  
残分者御帰国之上御覧ニ入  
候上御氣ニ入候ハ、早速御送り  
可下被候、御儀定被下候事 以上

(紙継割印)

右之内別義御不用ニテ御戻しニ  
相成候分として其代金早速  
返納置被下候事 以上

※展示は  
実線囲み部分

### 【参考文献】

- 『乙部家等古文書史料調査目録—平成19年度～平成21年度—』、松江市教育委員会、2010年
- 村角紀子「松江藩家老・乙部九郎兵衛の中国絵画コレクションと相見香雨—乙部家「御道具帳」と本屋平蔵「覚」—」『松江市歴史叢書』14号、2021年
- 村角紀子「松江藩家老・乙部家の幕末明治—絵画コレクション〈解体〉の背景」『松江歴史館研究紀要』10号、2022年
- 竹崎宏基「ボストン美術館所蔵の松江藩家老・乙部家旧蔵絵画、その伝来と特質—伝銭選「山茶花図」と伝徐熙「雪柳鷺図」を中心に—」『松江市歴史叢書』15号、2022年
- 竹崎宏基「松江藩家老・乙部家旧蔵絵画をめぐる諸問題—木挽町狩野家との関わりと「乙部仕立」を中心に—」『松江歴史館研究紀要』10号、2022年
- 村角紀子「松江藩家老・乙部家の中国絵画コレクション形成に関する調査研究」『鹿島美術研究年報』第44号別冊、2024年
- 村角紀子「松江藩家老・乙部家の絵画コレクション〈形成〉に関する調査報告—九代可備から十代可時への展開と新たな唐絵蒐集方法—」『松江市歴史叢書』18号、2025年

(附記) 伝雪舟筆「真山水図」の制作年代および評価等については菊屋家住宅保存会・菊屋吉生氏、山口県立美術館・荏開津通彦氏、ハーバード大学総合学術大学院・竹崎宏基氏よりご意見と情報提供をいただきました。